

東都大学図書館通信（深谷キャンパス）

Event Report 🌟

「この一冊を図書館に！」 学生選書ツアーを開催しました



2026年9月16日、紀伊屋書店の皆様のご協力のもと、新宿本店にて、本年度も「学生選書ツアー」を開催しました。「学生選書ツアー」は、学生の皆さんが「図書館に置いてほしい本」を自ら選ぶ企画です。当日は午前10時過ぎに新宿本店に集合し、書店の方から選書について説明を受けた後、約1時間30分にわたって店内を自由にめぐりながら、本を選んでいただきました。毎年、選ばれる本やジャンルはさまざまですが、「今年はどうな本が選ばれるだろう」と図書館も楽しみにしていましたが、今年も興味深く、思わず手に取ってみたいような本をたくさん選んでいただきました。参加した学生さんからは「自分の好きな本を選んで楽しかった」「大学生になって本と触れ合う機会が減っていたけれど、久しぶりに本屋さんで本を探してみると、興味が惹かれる本にも出会えて、楽しい時間を過ごせた」「電子ではなく紙の本に触れることができよかった」「選書中はずっとワクワクしていました！自分が選んだ本が図書館に並ぶなんて感無量です！」など嬉しい感想が寄せられています。今回のツアーを通して、「本屋さんを歩く楽しさ」も感じていただけたなら、図書館としても嬉しく思います。今回選ばれた本は、図書館内の「学生選書コーナー」に展示いたします。また、2027年4月中旬から約1か月間、紀伊屋書店新宿本店にて、POP（本を紹介するカード）の展示会も開催される予定です。詳細は改めてご案内いたします。皆さんもぜひ、書店で本との出会いを楽しんでください。

Historical Heroes 🏰

深谷から全国へー斎藤公子さんの保育



赤ちゃんにおむつはいらない
(三砂ちづる 編著/勁草書房)

戦後日本の保育実践に大きな影響を与えた保育者・斎藤公子（1920～2009）さん。埼玉県深谷市にさくら保育園・さくらんぼ保育園を創設し、「子どもたちがこれから生きていくための土台をつくること」を理念に、子どもの主体性や五感を育む保育を実践しました。その考え方は多くの著作や映像作品を通して全国へ広まり、現在も保育現場に受け継がれています。

書籍『赤ちゃんにおむつはいらない』では、さくらんぼ保育園で実践されてきた「おむつなし保育」を紹介。乳児期から布パンツで過ごし、排泄のたびに保育者が丁寧にかかわることで、子どもの快・不快の感覚を育むという保育観や、トイレ・トレーニングを行わず、発達に応じた自然な自立を大切にしている考え方を知ることができます。

Book Picks 📖

あの日の自分に伝えたいこと



めもそしていた1年目の自分に今自分から伝えたい
看護師暮らしのワバイバル術
(めもかん編集委員会 編集/うかうか イラスト/メディカ出版)

記録は終わらず毎日残業。退勤後は勉強する気力もなく、食事につき簡単に済ませてしまう。「私、看護師を続けていけるのかな…。」そんな看護師1年目の皆さんのリアルな悩みに寄り添う一冊です。経歴も年齢も異なる13人の看護師の皆さんが、新人時代の失敗や葛藤を率直に語り、業務や生活を立て直すための実践的なアドバイスを紹介。会話形式で読みやすく、病棟勤務だけでなく、保健師や訪問看護師など、多様なキャリアや看護観にも触れることができます。101ページから登場する「眼科看護師すん」さんは本学第1期卒業生。新人時代を振り返る等身大の言葉には、後輩への温かなエールが込められています。ぜひ、先輩からのメッセージに耳を傾けてみてください。

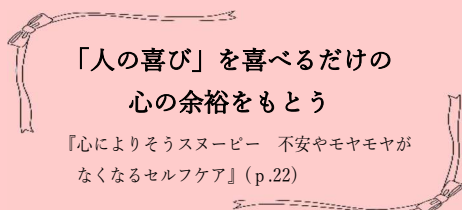
Touching Words 🌸

ことばの贈り物～本の中から～



心よりそうスヌーピー
不安やモヤモヤがなくなるセルフケア
(チャールズ・M・シュルツ原作/香山リカ監修/谷川俊太郎訳/リベラル社)

© 2026 Peanuts Worldwide LLC



スヌーピーと仲間たちの何気ない日常には、人生を豊かにするたくさんのヒントが詰まっています。この言葉もそのひとつ。人の喜びや悲しみに寄り添う心の余裕が、自分自身の心も穏やかにしてくれるでしょう。心を温めてくれる一冊です。

Book Picks 📖

その出会いが、人生を変えた



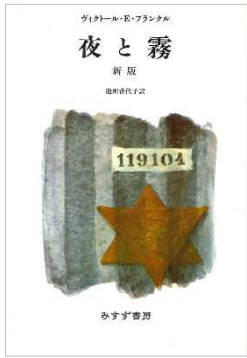
捨てられた僕と母猫と奇跡
心に傷を負った二人が新たに見つけた居場所
(船ヶ山 哲 著/プレジデント社)

映画化が決定した14万部を超えるベストセラー『捨てられた僕と母猫と奇跡』は、うつ病を患い、心身ともに苦しい状況にあった著者・船ヶ山哲さんが、保護猫施設で「テコ」と出会い、生活に彩りが生まれたノンフィクションです。人間に傷つけられた過去を持つテコと心を通わせる中で、船ヶ山さんは再び生きる力を取り戻し、仕事への復帰、結婚、子育て、そして起業へと歩を進めていきます。その歩みの傍らには、いつもテコが存在がありました。しかし……。かけがえのない存在との別れはある日突然訪れます。生きる希望の尊さを描いた感動の実話、ぜひ一読を。

Teacher's Picks

ヴィクトール・E・フランクル『夜と霧』（新版）

管理栄養学部 島田健行



夜と霧（新版）
（ヴィクトール・E・フランクル 著 /
池田香代子 訳 / みすず書房）

皆さんは日々の生活の中で、「自分は何のために生きているのだろうか」「自分の人生はこれでいいのだろうか」と疲れてしまうことはありませんか。SNS が普及し今まで見えなかったものが見えてしまったり、多様な価値観に翻弄されたりすると、自分自身の在り方について悩んでしまう人も多いのではないのでしょうか。

そんな心にぽっと灯りをともしてくれるのが、ヴィクトール・E・フランクル著の『夜と霧』という本です。本書は「生きる意味とは何か」をテーマとし、人間の精神と尊厳について深く掘り下げた作品です。フランクルはオーストリアの精神科医で、第二次世界大戦中ナチスの強制収容所に入れられてしまいます。そして極寒の地での強制労働や発疹チフスと闘いながら何とか生き延び、終戦に伴い生還を果たした人物です。「強制収容所の話はちょっと怖いかも…」と思った方もいるのではないのでしょうか。確かに残酷な描写もあることは事実です。しかし、常に死と隣り合わせの極限状態にある人々の精神を分析し、「生きる意味」に切実に向き合ってきたフランクルの言葉の1つ1つには、私たちが豊かに自分らしく生きるためのヒントが数多く綴られています。そんなフランクルの言葉の中で私が特に印象に残っているものの1つに次のようなものがあります。「ここで必要なのは、生きる意味について

の問いを百八十度方向転換することだ。わたしたちが生きていることからなにを期待するかではなく、むしろひたすら、生きることがわたしたちからなにを期待しているかが問題なのだ…」(129.12 - 14) という言葉です。私たちは「自分の生きる意味は何だろう」と自分の人生に意味を問う存在ではなく、人生から私たちに「あなたはどう生きますか」と問いかねられる存在なのだ、と、フランクルは言います。強制収容所で絶望的な体験をしたにも関わらず、自分自身が常にどう振舞うかが重要だということです。自分がもしフランクルと同じ状況にいたら、そこまで考えることができたのだろうか、と考えずにはいられませんね。

この他にも、フランクルのメッセージは数多くあります。今回は紹介しきれませんでしたが、本書を読めば、自分の琴線に触れる一節がきっと見つかると思います。自分自身の生き方を問いなおし、自分らしく生きるために、ぜひ手に取ってみてはいかがでしょうか。

Art & Culture

開創 700 年記念 特別展「大徳寺 本朝無双之禅苑」



京都・紫野に広がる大徳寺は、1326 年の開山以来、開山・宗峰妙超（大燈国師）の峻烈な禅風を受け継ぎ、歴代の名僧を輩出してきた日本を代表する禅寺です。後醍醐天皇から「本朝無双の禅苑」と称され、天皇や戦国武将、千利休をはじめとする茶人たちの信仰を集めながら、700 年にわたって独自の禅文化と美の世界を育んできました。

大徳寺開創 700 年を迎える 2026 年、その歴史と文化を象徴する貴重な寺宝が一堂に会する展覧会が、東京で初めて開催されます。大徳寺山内の塔頭や大徳寺派寺院に伝わる名宝がまとまって公開されるのは実に 41 年ぶり。普段は見ることのできない貴重な文化財を通して、大徳寺 700 年の歴史をたどります。さらに、通常非公開の三門を再現展示するほか、本尊や千利休居士像も初公開。禅と茶の湯が結びつきながら生み出した、静謐で奥深い美の極致に迫ります。歴代の名僧から天皇、戦国武将、茶人まで、多彩な人物たちが紡いだ大徳寺の歴史と、その精神に育まれた至高の美を堪能できるまたとない機会です。

会場：東京国立博物館 平成館 [東京・上野公園] (〒110-8712 東京都台東区上野公園 13-9) 会期：2026 年 10 月 14 日（水）～12 月 6 日（日） 開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時 ※毎週金・土曜、11 月 1 日・2 日・22 日は午後 8 時まで ※入館は閉館の 30 分前まで 休館日：月曜日（ただし、11 月 2 日・23 日・30 日は開館）、11 月 24 日 ※11 月 30 日は大徳寺展のみ開館 観覧料：一般 2,300 円、大学生 1,300 円、高校生 900 円 ※中学生以下、障がい者とその介護者 1 名は無料。入館の際に、生徒手帳、障がい者手帳等をご提示ください。※本展は事前予約不要です。 展覧会公式 HP：https://daitokuji2026.exhn.jp/ 展覧会公式 X：@daitokuji2026 東京国立博物館公式 HP：https://www.tnm.jp/ ※最新の情報は展覧会公式 HP をご覧ください。

Topics

東野圭吾さんを偲んで ― 心に残る物語の数々

2026 年 7 月 23 日、作家・東野圭吾さんが逝去されました。緻密な謎解きと温かな人間描写で多くの読者を魅了した作品の数々は、これからも世代を超えて読み継がれ、私たちの心の中で生き続けることでしょう。



More Book Picks



理由がわかればもっとおいしい！
発酵食品を楽しむ教科書
（金内誠 監修 / ナツメ社）

知っておいしい、発酵の世界

日本の食文化に欠かせない、みそ、しょうゆ、清酒、焼酎、漬物などの発酵食品。本書では、日本独自の発酵技術や麹菌の働き、発酵食品の歴史や製法を、豊富なイラストでわかりやすく紹介しています。世界からも注目される「発酵」の奥深い世界を楽しく学べる一冊です。発酵食品にまつわるコラムも収録。特に、「飲む点滴」甘酒のチカラ (p.96) では、甘酒の栄養や夏の意外な関わりを紹介。栄養価に優れ、天然の甘みをもつ甘酒を取り入れて、残暑を乗り切ってみてはいかがでしょうか。

More Book Picks



感謝を数え出すと
幸せが増えていく。
（武田双雲 著）

「ありがとう」の教科書
良いことばかりが降りそそぐ感謝の技術 30
（武田双雲 著 / すばる舎）

毎日に「ありがとう」を

「ありがとう」と言われると、心が温かくなりませんか？ 本書では、書道家の武田双雲さんが、感謝を習慣にする 30 の方法を紹介します。いつもの食事や身の回りのもの、人とのつながりなど、当たり前と思っていることに目を向けるだけで、毎日の小さな幸せに気づけるかもしれません。いつもの暮らしを少し違った視点で見つめ、「ありがとう」を見つけることから、心豊かな毎日を始めてみませんか？

Editor's Note & News

2026 年も早いもので、10 月を迎えようとしています。朝夕には秋の気配が感じられるようになり、少しずつ季節の移ろいを感じる頃となりました。この季節に、読書を通して心やすらぐひとときを過ごしてみたいでしょうか。皆さまにとって、心地よい一冊との出会いがありますように。